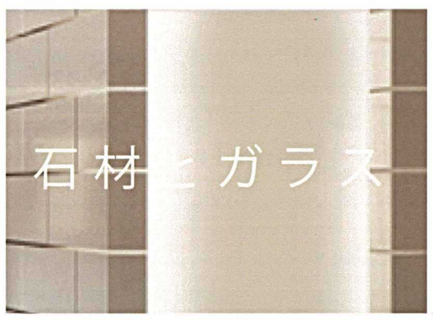
国際社会の玄関口として品格のある華やかな銀座駅

銀座は過去の歴史を切り捨てないで、次の新しい独自の先進性を見つけて発展して来た。
銀座は明治に「官」がつくった銀座煉瓦街と「民」がつくったショーウィンドウが現在も街の象徴となっている。そこで、煉瓦街の「石材」とショーウィンドウの「ガラス」を融合させた「ガラス目地によるレンガ積み」という馴染みのある素材を組み合わせることで生まれた新たな素材が銀座駅の先進性を象徴する空間を構成していく。そして、繁華街としての銀座の華やかさを「組子や銀細工」の職人技で光と影の装飾を施し空間を演出する。

■ 望ましい経験（40 代 男性。イギリスからのビジネスマン。2025 年、商談で初めての来日。）

一度は訪れたいと思っていた日本に 1 日だけ仕事で行くことになった。空港から商談先がある銀座駅に向かった。プラットホームに降立つと驚いた。白いレンガ造りの列柱が荘厳な雰囲気を醸し出し、華やかさと落ち着いた気品のある空間が私を出迎えたのだ。天井を見上げると変った模様が施されており、その美しさに引き込まれながら階段を登り改札を抜けると大空間の地下道が現れた。商談まで少し時間があったので、地下道を当てもなく歩くことにした。地下道を歩くと目に入ってくるのは光と影に彩られた柱と天井、壁の華やかさだ。ふと壁に目を留めると、銀座の歴史が不思議な模様で描かれている。今の私のような状況を「銀ぶら」というらしい。知らない間に私は日本の文化に触れていたようだ。待合せの時刻が近づいたので、商談相手に現在地を知らせるため近くの柱に携帯電話をかざす。すると携帯電話に現在地と周辺情報が表れ、相手に送信し待つことにした。あらためて周りを見ると、自分と同じビジネスマンが多く、携帯電話を柱や壁にかざして情報収集をしている人が多い。案内板を探さなくてもいいので、私のような時間のないビジネスマンにはありがたい機能である。商談相手が到着し、出口へ進むと階段の足元に桜の花の影が広がっていた。天井を見上げると、繊細な桜の模様が目を楽しませてくれる。組子と言うのだそうだ。地上に出ると、今度は満開の桜の花々が迎えてくれた。



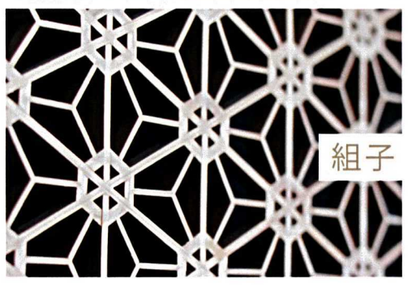
▼ プラットホーム
銀座の品格と歴史の重厚感を感じる空間を石材とガラスが構成。ガラス目地というこの一見慎ましいディテールに知恵と技術の結晶が集結し、銀座の新しい先進性を築いていく。

▲ 改札
組子文様が施されている壁や天井が人を誘導するサインデザインとなる。

■ 駅のあり方

銀座は江戸時代の銀貨鋳造所に見られる「職人の町」、明治から現代に至る「繁華街」と街の特性が変化してきた。そして 2020 年のオリンピック以降、日本はより国際化を迎える中、銀座は観光やショッピングの場を越えて、国際社会のビジネスシーンにおいて重要な場となり、銀座駅は「国際社会の玄関口」となる。銀座駅は銀座から日本が更に発展し、成長していくための起点となり、「石材」「ガラス」「組子、銀細工」が融合した銀座独自の先進性をもった国際社会の玄関口として相応しい品格のある華やかな駅として機能していく。

▲上屋
ガラスと石材のレンガ積みを象徴するような浮遊感のあるデザインとなっている。天井の組子は柳を見立てた文様（銀座口）と桜文様（西銀座口）となっている。天井の組子文様が落とす光や影の華やかさが銀座の街の華やかさを象徴し地上に向かうほど心踊る体験が地下と街を繋げる。階段上部の一部がガラスとなっており、地下から外の天候や様子をうかがい知ることができる。



▲ コンコース・駅機能
壁面に施された組子が絵語り組子となっており、銀座の歴史の移り変わりを知ることが出来る。水面に光が反射したようなベンチはかつて銀座を巡っていた堀割に見立てている。駅機能の 1 つとして、駅構内の柱は一部がショーウィンドウのようになっており、タッチパネル式の液晶ディスプレイがはめこまれている。液晶ディスプレイでは、現在地や広告などの様々な情報を得ることが出来る。壁面の絵語り組子やベンチ、柱の情報パネルが待ち合わせをする人達に安心感と楽しみのある憩いの場を提供する。